北[illegible]句集後編

坤

枇杷園句集後編　巻之三

秋

初秋

主なき寺にて来る竈の秋

秋立つや目ふる園扇の風そよ

秋の麻そよつれる蓬うら

うれ出る穂を立て秋のうれつ子

秋立つや蓮の葉買乃池めぐり

蚤蚊てきて眠られとやえる
旅情いとさびしかりけるおもひて
茨をふるもかなしかりき　秋

七夕

兄弟の笹にかゝるそひや星ひかり
大膳の屋川をわたる橋しの書
天河ながし誠にかゝる申義この角
水仙ふむうくてまつ盆の月

死後の枕上にむしゆむといひなる
夫おのゝ墓所ふ詣て
握りまもしきれちらつ塚の艸

新凉

拝子の義をれしなる河原うる
野秀亭萩見

萩乃西河原のうつてる萩の声
女郎花

咲くほどもこえて女郎花

木槿

むしたちの巣ある木槿ひとえ一り

薄

蟷螂の風ひ刃を置く芒の穂

友鳳亭

秋の日はすしひとてひとて梅蔓ふかめの黄

色ある小老母艸の青こしこしを艸こそとも

交て野邊の氣色をこうあるとくひ花瓶小

活て砧の聲白きよ望ま花ひとつとも秋の雨永く

静小ゆ水て庭の竈ひとさひ ひとつて

こえ小秋ハ

萩をこえきをなをこえて遠きあさ

小夜ふめる月のかけそる霜やはく

露

山間や旅ひ捨ひ藪笠の露

世てつのりまて人ふるきやの草の葉

蟋蟀

ふるさとのとのもしく鳴虫さえきつゝくす

霧

いけ新日の外ふかのふしゝ雲の海

得車一字

名きつゝ関屋てうこそ車このち

角力

萩う根の小家てうくる角力こゝ

蜻蛉

窓うけ羽きて社蜻蛉の義をうふ

八朔

竹馬や野ちゝ八朔の里ゝ〳〵べ

月　題朔日月

ほのゝとあなる月花を栄て煙こゝ

山さとや中ゝ社うふてのてけ月夜

花鳥のうつるにのひらまに古寺ふる名を成
就院ゆうさくやなむ　芭蕉の翁こゝに庵か
晩望して何ものあるたよりかは俤三日の月
かゝるいひ出に孔子又五條坊木児よいへるこの
唫をゆゝしかりて三日月塚をさく築なかれ
ゝ孔さく五十年のきつれふるまて尾破も不染
ものは狐狸ものはゝ人まもさるふるゝかゝ
ゝ少ぬこゝ小濱島の尤琴を法華の信実の長

者なり小堂仏生おはすけふいとなゝ逐之
庭中の松柏ふる沼を得垣外の風をかしらを
擡く吟客の面起まくまはなるをや
三日月ゆゝ似ることのゝ　二日　月
應汀ふて
月の来る門まて出てもおくしら
宿山寺
雲ふゝて衣のしめまに身秋の南

甚目寺

雨あがり月もほのぬれ鷺の宿
降くるる月や栗ものこりの陰

秋夜憶馬六老人

目さめ　やもれ老をおもふや月の入

仲秋無月

月かむこうふちのくもる雨のもとくもる

雨後

月てらすや水ゆくあとの砂の形

帯梅亭

盃をあらはして山月を印き筆を投じて故園を
おもふ思ひ故園の友ともこれはるそひかゝれ
ゝをおもひなつかしきそおいもひの風流海山の
意をよそをして主人の雅情ふかくもひるる
それ鳥をよろこぶと象を言ふれ月
良夜清光

明月不[illegible]の[illegible]る屋[illegible]郭
いさよふうゑてをまし月の[illegible]口
八月望の秋岳輅少汝大阜旅亭甚成業とゝ不ら
湖の長めをまゝあそふ帰路おもはぬ風のふく
口けゝれは徒詩のきゝ須よきをのふの州の郭
月の走をあゝまゝ不[illegible]うるさてしゆ[illegible]
なゝ[illegible]おの〳〵袖[illegible]の[illegible]て帰[illegible]
今宵まこいさよひの月をゝ[illegible]て前の秋の人

〳〵ゝ俗青ゝ文老峯ふ集[illegible]ふおゝまていひやゝる
宵間をゝてゝ泛〳〵家月の友
唐黍の垣[illegible]月秋砌の郭

案山子

老[illegible]牙の作[illegible]出し[illegible]
誰不送春秋一年三百日
煙霞藥此身恐治愚痴疾
月[illegible]を壁不[illegible]

かゝるしるしなきよ世ハ[illegible]人の
こゝろの色〳〵もていひかゝるをうらやまし
やと人のあまてさうひ月のいとやゝ移りて
むいさゝ松の下ゝ[illegible]ゝ[illegible]
起もあゝて

山さとの身をさゝく庭の松
月ゝ松の半ゝかゝりて夜坐閑なり虫の声〳〵
ちゝ〳〵とかきり之盃をさゝ也

鳴子

秋もさやゝ水ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

蘭

ゆゝ〳〵しき業ゝ古人のふるひこゝろ

悼青川

つゝ死なゝかゝるゝ尾張へといひ遺しうつゝて
青子ゝ常ふ刃をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ瓢乃
いなゝもとゝゝを送りぬゝゝゝゝゝゝゝ

五年六年先師ナクナルヨリ幸洲ノ砂上ノ
花ヒテ降ルラ花ノ便風トシテ出テ薄雲ノ
雨ヨリ奇ナリ酔臥ウタ[illegible]ヒ世ノ
ツノ花ヒラクルヒ家人ヤ青子ノ遺言
ヨリテ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ
中ノ[illegible]ヒ今宵ノ月ヲ[illegible]ヒ

雁

[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

湖ノ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

鹿

鹿ノ[illegible]ヒ梢ヒ月ノ雫[illegible]ヒ

題[illegible]ヒ

[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

妹ノ[illegible]ヒ同[illegible]ヒ木蔭ヲ昨日[illegible]ヒ

宇治ヘ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ秋ノ山

八月ヒ雨ヨリ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

夕の竹の鳴のまさしく萩のしたえん
九十の翁あり東水ゝ祖父なる手つゝ葡萄
をうゑて秋色たゝかるゝ玲瓏たる人多くこれを試
るに翁曰我はこのゝしてて葡萄をゝく三年ふ
してて蔓をまきて五年ありてこゝをむすぶあたゝく
こゝに比隣を覆へるに日人ありて雅客の
餐餘ふるまてふ客もまたふきはふれふこゝしんへ
青銭七百文ふかくよみゝをむ翁やゝてよりこゝ云

まさまる秋のたゝめそのゝ人又来て云こゝも
又はきふこゝたゝびに二貫文を図ゝやあやも
翁まさしこゝ云ゝ年ゝ歳ゝこゝのこゝふして
つひに黄金十ひゝをつゝ翁樹下ふ板屋を
作りて笑て曰葡萄のあふなる葡萄のこゝんふちふふ
ゝて蒲萄亭と名附こゝそのこゝ東水子ゝ門人こゝ予
東水のたゝあに志ゝ

茱萸

山茱萸ついて落る小鳥こう郎

戀

いもうか萩折このもてをもふ人利

菊

香たゝしあるかの菓子利落る蟻の形

漏桶やたゝく石一黄菊を一つ見

菊の香や燈をともす井の於く

小庭の菊をもいかの殿薄黄の君と名つけ事

いとちいさくおりをかしをかしかのもとの

やゝ大きくなりのぬくよる菊の九日のくれ日まて

花ひとつ二つ咲出るはつぼさきをおもはつまく

やきゝ番つゝ接むとおとなりて

吸出られをたよひの菓乃友

かくもてなすさくをふのく咲出るはは

さくの頃とも君ら日なれハ於人利

送暮雨翁

月と菊の氣てまり勢こる旅舞うふ

半雨舎ち山を額ふ引て水を脚ふ踏てくつの

杉間ふ天をうぶ出家身を杉て引ふ

高月ちりてこそ秋こゝろの月を

むかしをとふ栖なるかな

半天て出家伸ゑ行ふ后の月

後の秋北藪弱東中月北友

秋暮

小高ハ北ハけうちなふ秋の暮

瀧山寺の如くに岱呂ゝ別莊ふ入る

石紫ーて菴ち柚味噌のふ引ひふ

平齋ゝ紅葉見ふ浪花の麦太の芦自慢稻の

僊風ゝ落のくなーー日もち中山の端ふ蔭うるぬ

渦山北そ別ーーちこゝ刑ゝ多みち

日暮て五老峯ふいく刑を歩の石葉のりて

なしふとて石葉を席上ふうちてくーこれは

龍田川を紙子着てワらはれ許子の風流は
仙のうひてかきらら坐りつゝ侍る
一字り〳〵幾白かゝゝやちるゝ英ち
梅ゝ人のかゝひゝ新みほひふう菊ゝて人乃
涼切ふ花多し
ゝり 雲乃下乃庵の菊 尺 華

暮秋

名残なゝ秋やあうゝき西乃海

り秋乃中乃ゆゝゝゝきゝて何ゝなゝふ
ゆゝ秋や むうゝゝものを思ふゝ

枇杷園句集後編卷之四

冬

時雨

青鷺峰〳〵やしゝ社の先そゝ[illegible]

しぐるゝそいこのゝ出るゝ数ふ波の月

松低ゝさゝ[illegible]ゝ社の鴉ゆゝ

り違ふ船ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ郷

尚齡會

壽をよむこうをもて自然をよろこ
まれしむ人おのつゝ命ながいふへ乃
清代ふる椽榻けつゝを茅茨きゝてか
ゝ和清上ふうゝ殿ゝおゝまして
清ゝ紙をもやもむしをまとぐさ飛い方
ゝきゝ松のゝ庭萱の形ふ函居して自然
をまきむしむ巻の多ゝいくゝれ歌をもつ
へまゝゝもゝの形ゝゝ飛をゝゝもふゝ飛

かるゝて文化四乗ゝ一月形ゝゝゝ飛ゝゝゝて
寒ゝゝ日暮雨巷の埋火れゝゝかゝ爺ゝつゝ
あゝ勢てるゝゝ世のゝゝゝうゝに歩を除ゝぬ

芦ゝゝく軒をゝゝ飛のゝゝくの菊

艸菴

洩ゝ月をなくゝゝゝゝてゝゝゝ飛
ゝゝゝをゝゝ登ふゝうゝゝゝ山

送百非天民帰奥州

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百非もちひの友巣居の子よりくいへさとりて

あり[illegible]ふ名ぶ[illegible]

[illegible]

落葉

畑中に栃一色の落葉こそ郷

藪乃中ふる一木ひとり落葉うら

さびしとてもとまる言はしてくれる落葉ふる哉

牛道の　磯家にしも紫木紫の実

奥田氏池亭

[illegible]

茶花

茶の[illegible]孔子何の香うるゆゑよ

茶花の[illegible]三日月のほひう菊

自感

茶ふるのきれる人ハ掛干をするまハそれ
ゆゑ古紙よりもあるものなるさまを他諸ふ
うのきれる歌人ハ物をあつまるハ
と茶よりそへて持出るハ其つゝ分まてるゝ他も
やはりて書く茶を飲てゐるさ紙ハ掛干しも
まいこのいふハなのぬのなりとゝ得て俳諧可
うかゝきぬやうふ事分へよも

千鳥

きるはは覓をつゝふよとるゝふ
二村やゝふる少之歌やうの義也
朝寝さのふとるゝ生れるいるゝ不哉

木兎

木兎やゝ田ゝる固ふて日半日

木枯

木こゝしれ如くゝ卅木まゝ之ゝ須

小瀬里

風や鶏そなへもの宵乃宿

葱

小式部もとめる夏の根深畑

冬木立

ちらばるなる一葉二葉や冬木立

冬木立越のたにしら雪

炭薪主人二瓢を壺中の油みしと

東武ふ倶しひとつもちたの壁上ふ懸て

菴を守しむ主人帰るまてもり

盧瓢をこふ答ふ

夜もすがら鴨のたゝひくなりかゝ瓢

食

分をつむもちの如き阪の石〻山

如其もの張まゝ勝てしもの新ふ髪哉

題しゝ寿

稲つみ[illegible]

さむしろ敷しる漁村の柿枯れ[illegible]

[illegible]と時雨[illegible]

冬の日や蔦葉とて生[illegible]法師

冬れ葉や[illegible]仲の[illegible]

[illegible]冬[illegible]雲[illegible]鶴

桑名渡海

舟底へ月のさしいるむさしの船

火桶

月さびて芝賀の鐘ゆく火桶[illegible]

木枯

冬枯や坂戸ふしむ朝月夜

栗津里龍ゐ岡ふ松杉欝[illegible]留の堂[illegible]

丈艸法師の[illegible]庵の[illegible]は

いつ〳〵彼きそてぬそのあ[illegible]無名庵の侍そ

かゞのこゝれ庵を[illegible]人の住

[illegible]

法師の[illegible]ふ[illegible]ゆゑ[illegible]て吊ひ
[illegible]なし里人のふ三年四年のきのふう
[illegible]る宮の上ふうつしぬとゝ以て見
[illegible]正秀東花坊雲裏巴静ゝ徒の碑ふとゝ
一本ゝ[illegible]なゝあふ[illegible]隠[illegible]れ法師う
性素[illegible]ふなる[illegible]あう社あり[illegible]
[illegible]ふの[illegible]なる[illegible]

冬かれ中野あれ草ふ鳥[illegible]

寒月

寒月ゝ[illegible]ふ雲乃ちゝ[illegible]
玉兎う松林を[illegible]ふ月の[illegible]ふ晴
[illegible]ふ社[illegible]其氣色[illegible]社てさうふ
[illegible]草の[illegible]を引[illegible]の所の地形
[illegible]ト[illegible]

松山ゝ申[illegible]冬の月夜の南

生海鼠

うねり出てうきもふるなまこ哉

[illegible]

枯蘆

[illegible]

玉野里

霜白し麥嗆麻のあれ[illegible]

炭

峯の雪宇治の炭舟[illegible]

雪

雪やまむこの月さへ[illegible]山の上

角ゝ雪ゝ折〳〵ふゝ竹のかげ

老[illegible]ふ[illegible]おゝ雪乃笠

月雪の夜をあゝ[illegible]る情哉

日の[illegible]方ゝ西ゝ雪乃原

雪[illegible]れて馬の壁ふむ都哉

夜[illegible]山買ふ出む庵の雪

青雲屋の名を青竹帯雲のくゝるをいふ

まゝこの三井寺の西〻飛て湖上青〻とこゝ来へ

〻や

軒ふ妙ふ雪ふ[illegible]

鉢敲

ふるむれハなつのそんて中なる鉢まゝ

萬和難波津ふ帰むとまゝれこれ之人四人

枇杷園ふ来まて離盃をとゝ[illegible]

交ふれハ目ひゝある魚ふ[illegible]

る蕨根汁ゝいふものを焚て酒斟む折ゝ

妙れる雪〻ふれをとてなゝて鼻を丹ぬゝ

ゝてあゝゝ行へる人ゝ[illegible]

蕨根汁焚中尾花を折ふこゝ

網代守

阿[illegible]守海ゝ山れ六ゝ家ゝ

炬燵

そて果しく角の伸く未もとろとろ

守武風

玉藻きて奇妙なる細工の菊

枯野

ふる枯日もいまぬ枯野の水溜り

冬籠

冬籠大黒の灯をもやしけり

戀

煎蛎や煮こうきぬ浅芽生り

煤掃

ぬけよりもへ煤ふる眼糸の弟

年暮

おとさくらたちあるへし季の梅

手ゆく雪を四隅かうめ椿

板くさ枕ふるとしも一日の菊

歳杪偶成

于斛東家酒西家費萬錢
生涯醉中了不問歳時遷

呆花堂主人 方鼎 書

世事千変万化し
春夢の如く浮雲の如し
悔編おもふまじ
名のみもとゝ無常なり
やまとゝ和うなる人の
雪月花うつる事
雪月花の事

中書郎も書きて揮毫
して世にあやまれを
弘めていのちやたかもも
かひらぶまよ因るおのも
幸系師のこゝに乎あるて
白さと石出とゝ見
置るのはゝをこゝひ

阜池ゝ南乎探し出て
枇杷園白集後編と頂
このたゝそのよ出て京て
跋ます

曙葊 秋峯

琵琶園社中撰集書目

尾張名古屋
東壁書房 永樂屋東四郎

雀芝集　此書は朱樹翁東方紀行の集なるを諸國より開板せるを一ひとつゝあつめて全部五冊なり

春鶯囀　全一冊　梅蔵人　天老著　全一冊

法華経　全一冊　三日月集　白圃撰　少汝補　全一冊

麻苅　全一冊　秋風餘情　椿堂撰　全一冊

鳶乃眼　全一冊　人来鳥　青川撰　全一冊

むゝ合　全一冊　玉垣集　孔阜撰　全一冊

續赫夜姫　全一冊　草枕　素壁撰　全一冊

瓢日記　全一冊　松の炭　蕉雨撰　全一冊

橋日記　卓池撰　全一冊

庵の犬　野雀五道大蘇同輯　全二冊

うつゝ衣　也有老人述　全三冊
狂歌の狂言綺語をあつむ

同後編　同上　全三冊

狂歌蓬ヶ嶋　三蔵樓大人選
春興狂詠　全二冊

狂歌頑の絲　同上
七夕の狂歌發句　全一冊

狂歌初日集　同右
狂詠角力合の高点をあつめ　全二冊

狂歌千歳集　同上古人今人もゝまの秀逸乃狂歌をあつむ　全二冊

狂歌初心抄一冊　唐衣橘洲大人著
詠歌の名目よりあつきの条々をあつむ

狂歌才蔵集　四季とりゝち
詠君の高点をあつむ　全二冊

俳諧歳時記　著作堂先生撰
全部二冊
此書八四季詞寄彩撰增註神事佛會古事古歌かゝらく裁る事甚詳し

同夏たいもつ　也有翁著　全一冊

同諸集訂誤　布碩翁著　全一冊

ミのすゝ物語　宿屋飯盛大人著
全部二冊出来
此書八當世代物ゝ語ゝ
俗淫のうち多て尤興あるを取ゝ
主文體八宇治拾遺物語の雅文よりもく絵入とふし
和学俳文狂文はきよけよりも甚おもしろく書なす